

第49回「放送文化基金賞」表彰対象について

放送文化基金賞は、過去1年間(2022年4月～2023年3月)の放送・配信された中から選ばれた、優れた番組・コンテンツや個人、グループに贈られる賞です。今回は、全国の民放、NHK、コミュニティ放送局などから、全部で251件の応募、推薦がありました。4月から約2か月にわたる厳正な審査の結果、ドキュメンタリー、ドラマ、エンターテインメント、ラジオの4つの部門で、それぞれ最優秀賞、優秀賞、奨励賞の16作品と、演技賞や出演者賞など個人6件、さらに放送文化、放送技術部門で8件の受賞が決まりました。

受賞者には、賞牌・トロフィー、賞金が贈られます。賞金は、最優秀賞—100万円、優秀賞—70万円、奨励賞—50万円、個人賞—30万円、放送文化、放送技術部門—30万円です。

贈呈式は、2023年7月13日(木)午後4時30分からオークラ東京で行います。

- 1 ドキュメンタリー部門……………5番組
最優秀賞—1 優秀賞—1 奨励賞—3
- 2 ドラマ部門……………4番組
最優秀賞—1 優秀賞—1 奨励賞—2
- 3 エンターテインメント部門……………4番組
最優秀賞—1 優秀賞—1 奨励賞—2
- 4 ラジオ部門……………3番組
最優秀賞—1 優秀賞—1 奨励賞—1
- 1～4の中から個人……………6件
「演技賞」——— 2件
「出演者賞」——— 1件
「脚本賞」——— 1件
「脚本・演出賞」——— 1件
「企画・演出・脚本賞」— 1件
- 5 放送文化部門……………4件
- 6 放送技術部門……………4件

お問い合わせ先 放送文化基金(担当 川副、鈴木、大園)
東京都渋谷区神山町9-6 日本会館2
TEL(03)5738-7151

第49回「放送文化基金賞」受賞一覧

部 門	賞 (賞金)	受 賞 者	番 組 名 ・ 業 績
ドキュメンタリー	最 優 秀 賞 (100万円)	北海道放送	性別は誰が決めるか ～「心の生」をみつめて～
	優 秀 賞 (70万円)	NHK仙台放送局	NHKスペシャル 海辺にあった、町の病院 ～震災12年 石巻市雄勝町～
	(50万円)	NHK	E TV特集「ルポ 死亡退院 ～精神医療・闇の実態～」
	奨 励 賞 (50万円)	朝日放送テレビ	こどもホスピス ～いのち輝く“第2のおうち”～
	(50万円)	高知放送	にっこり笑って ～山あいの写真館 10年の物語～
ド ラ マ	最 優 秀 賞 (100万円)	関西テレビ放送	エルピス —希望、あるいは災い—
	優 秀 賞 (70万円)	NHK	ドラマ10 大奥
	(50万円)	東京ビデオセンター、NHK、 NHKグローバルメディアサービス	ふたりのウルトラマン
	奨 励 賞 (50万円)	日本テレビ放送網	ブラッシュアップライフ
エンター テインメント	最 優 秀 賞 (100万円)	読売テレビ放送、中京テレビ放送	～この後どうする？密着TV～ 終わりが始まり
	優 秀 賞 (70万円)	NHK、NHKエデュケーショナル、 豪勢スタジオ	TAROMAN 岡本太郎式特撮活劇
	(50万円)	NHK	NHKスペシャル 超・進化論 第1集 植物からのメッセージ ～地球を彩る驚異の世界～ 第2集 愛しき昆虫たち ～最強の適応力～
	奨 励 賞 (50万円)	琉球放送	THE 闘牛アワー
ラ ジ オ	最 優 秀 賞 (100万円)	FM TANABE	講談風大河ラジオドラマ「弁慶記」
	優 秀 賞 (70万円)	ニッポン放送	きたやまおさむ「イムジン河」スペシャル ～音楽は時代(とき)を超える～
	奨 励 賞 (50万円)	琉球放送	音で綴る復帰50年「民の謡 島に息づく琉球民謡」 「沖縄のお笑い ～そこに込められた想いを辿る～」
	演 技 賞 (30万円)	長澤まさみ	エルピス —希望、あるいは災い—
	演 技 賞 (30万円)	満島真之介	ふたりのウルトラマン
	出 演 者 賞 (30万円)	相原啓介	E TV特集「ルポ 死亡退院 ～精神医療・闇の実態～」
	脚 本 賞 (30万円)	森下佳子	ドラマ10 大奥
	脚本・演出賞 (30万円)	藤井 亮	TAROMAN 岡本太郎式特撮活劇
	企画・演出・ 脚本賞 (30万円)	大崎健志	講談風大河ラジオドラマ「弁慶記」
放 送 文 化	(30万円)	香取啓志 (radiko最高技術顧問、メディアプラットフォームラボ取締役 所長 兼 技術戦略室長)	radikoの開発・普及に貢献
	(30万円)	FMいるか (函館山ロープウェイ)	コミュニティFM第1号として、30年間日本のコミュニティFM界を先導
	(30万円)	広島テレビ制作スタッフ (広島テレビ放送)	原爆ドキュメンタリーを学校の平和教材に活用
	(30万円)	『ガイアの夜明け』制作スタッフ (テレビ東京)	20年にわたり、地上波プライムタイムで経済ドキュメンタリー番組『ガイアの夜明け』を放送
放 送 技 術	(30万円)	ニュース映像自動要約技術実用化グループ (NHK、NHK財団) 代表 望月貴裕 (NHK)	ニュース映像自動要約技術の開発と実用化
	(30万円)	Alligator開発グループ (日本テレビ放送網、NEC、NTT東日本、オクルウェブ) 代表 小池 中 (日本テレビ放送網)	制作系番組制作フローを効率化するDXツール『Alligator』の開発
	(30万円)	AI音声合成の実用化と社会貢献推進チーム (NHK) 代表 栗原 清	AI音声合成の実用化と社会貢献
	(30万円)	BlurOn開発チーム (日本テレビ放送網、NTTデータ) 代表 加藤大樹 (日本テレビ放送網)	AIモザイク編集ソフト「BlurOn」の開発

*各部門の掲載順は受付順による。

第49回 放送文化基金賞
— ドキュメンタリー部門 —

最優秀賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者等	概要	選考理由
性別は誰が決めるか ～「心の生」をみつ めて～ 2022. 10. 17 (月) 北海道放送	プロデューサー 山崎 裕侍 ディレクター 泉 優紀子 編集 四倉 悠策 撮影 蓮本 宗徳 滝ヶ平国彦 ナレーション 世永 聖奈	きみちゃんは身体が女性で、心が男性のトランスジェンダー男性。パートナーであるちかさんは、身体も心も男性。2人は“心が男性どうし”のカップルだ。心が男性のきみちゃんのおなかには、2人の新しい命が宿っている。きみちゃんはかつて、男性として生きていくため性別適合手術を受けようとした。戸籍の性別変更には、生殖腺（精巣や卵巣）がないことが条件だからだ。しかしちかさんと出会い、子どもを持つ将来を描くようになり、手術をやめて戸籍を女性のままにした。日本では戸籍の性別を変えるために、「子どもを持つこと」を諦めなくてはいけない。トランスジェンダー男性の崇来人さんは、性別変更のために身体への負担が大きい手術を受ける必要はないと訴えてきた。一方でトランスジェンダー女性のありすさんは、周囲に支えられながら手術を受ける選択をした。生き方や考え方には、グラデーションがある。「性別」とは何か、誰が決めるのか。	ある妊娠したトランスジェンダーの男性は、「性同一性障害特例法」によって性別変更ができないでいる。戸籍の性別変更には生殖腺（精巣や卵巣）がないことが条件と決められているからである。LGBTQへの理解も深まりつつある現在、「性同一性障害特例法」だけは、性と体を無理やり一致させることを条件としている。多様性と言いながら、社会の無理解と差別は、法の中に存在している。 本番組は被取材者との信頼関係を築いたことによって、プライバシーにも触れる綿密な取材を可能にし、大きな問題提起ができた。

優秀賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者等	概要	選考理由
NHKスペシャル 海辺にあった、町の 病院 ～震災12年 石巻市雄勝町～ 2023. 3. 11 (土) NHK仙台放送局	ディレクター 高橋 憲吾 谷本 奈々 松本真理子 撮影 浅野康治郎 音声・照明 井口 大輔 編集 中澤 和彦 音響効果 定本 正治 プロデューサー 河野 泉洋 岡部 綾子 制作統括 池本 端 篠田 洋祐	風光明媚なリアス式海岸に面し、病室から穏やかな海が見えた「石巻市立雄勝病院」。東日本大震災で屋上を越える高さ16メートルの津波に襲われ、患者と職員の9割が犠牲になった。医師や看護師たちは、自力で逃げられない患者を置いていけないと、住民の静止を振り切って病棟に向かった姿が目撃されている。地域医療の拠り所だった町の病院。“あの日”までここにはどんな日常があったのか。残された遺族や同僚は、“その後”をどう生きてきたのか。震災12年、初めて語られる心の内に耳を傾ける。	雄勝町の雄勝病院職員24人は、寝たきりの老人を見捨てられないと残って津波に消えた。12年という歳月が経って、ようやく重い口を開き、何とも割り切れない思いを話し始めた病院職員の遺族たち。正解のない問いを発し続けるのはメディアの役目であることを如実に表した素晴らしい作品。

奨励賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者等	概要	選考理由
<p>E T V 特集「ルポ 死亡退院～精神医 療・闇の実態～」</p> <p>2023. 2. 25 (土)</p> <p>NHK</p>	<p>制作統括 真野 修一 梅原 勇樹 久保 暢之 ディレクター 持丸 彰子 青山 浩平 撮影 高橋 剛 音声 小川 房美 編集 鈴木 信夫 音響効果 栃木 康幸 ナレーション 高橋 美鈴 出演 相原 啓介</p>	<p>取材班が独自に入手した、ある精神科病院の内実を告発する膨大な映像と音声、そして 1500 人の患者のリスト。そこには患者への虐待や違法な身体拘束が行われている実態が記録されていた。死亡退院率は 78%。浮かび上がったのは、一部の精神科病院が、家族や他の精神科病院、行政からも必要とされ、社会に居場所を失った患者の受け皿として機能する実態だった。繰り返される虐待、機能しない行政の監査…。閉鎖性の高い精神科病院で繰り返して起きてきた問題に、膨大な記録と、患者や家族、病院、行政関係者に、1 年以上にわたる取材から多角的に迫った調査報道ドキュメント。</p>	<p>入院患者の半数以上が生活保護受給者で、死亡退院率が 78% という突出した数字の精神病院がある。虐待の噂があるにも拘わらず、患者の引き取り手がなく、現代の姥捨て山の様相を呈している。膨大な記録を取り、長い時間をかけて取材した労作は、遂に行政を動かした。</p>
<p>こどもホスピス ～いのち輝く“第2 のおうち”～</p> <p>2022. 11. 12 (土)</p> <p>朝日放送テレビ</p>	<p>プロデューサー 西 一樹 ディレクター 長谷川 健 ナレーション 桂 紗綾 撮影 神近 伸彰 編集 轟井 治</p>	<p>がんや心臓病などの重い病気と闘っている子どもたちは、国内に 2 万人いるとされている。長い入院生活で孤立感を深める子どもたちやその家族のために、安心して好きなことを学び、遊べる“第2の家”を提供するのが「こどもホスピス」だ。2016 年、全国で初めて開所した大阪の民間小児ホスピス「TSURUMI こどもホスピス」に長期密着。病と懸命に闘う子どもと家族、寄り添うスタッフと支援者、最愛の子を亡くし新たな施設の立ち上げに奔走する母の姿を追った。TSURUMI こどもホスピスがまいた種は、いま、各地で花を咲かそうとしている。</p>	<p>日本では、子供ホスピスは民間にしかない。人の生死や尊厳が医療だけに完結しているために、治すことが第一義に考えられているからだ。病める子供とその家族も癒やされるべきだという考えで、子供を亡くした親によって創立されたという。「放送を見て支援の輪は大きく広がった。『ケアにつながる放送』を提示することができた」と、作り手は語っている。</p>
<p>にっこり笑って ～山あいの写真館 10年の物語～</p> <p>2022. 5. 14 (土)</p> <p>高知放送</p>	<p>ディレクター 中嶋 淳介 田中 正史 撮影・編集 西山 徹 ナレーション 有吉 都 プロデューサー 植村 浩史 出演 中西 三男 吉川 菊恵 北窪 正光</p>	<p>高知県大豊町で唯一の写真館を営む中西三男さん (74)。2008 年から集落を回り、お年寄りたちの笑顔の遺影を撮影している。中西さんが訪問先で冗談をまじえながら撮影を進めると、お年寄りたちの顔がほころんでいく。撮影のきっかけは、自分の父親が亡くなった時、優しかった面影を遺すことができなかったから。その後悔を胸に約 700 人を撮影してきた。</p> <p>集落を回るもう一つの理由、それはお年寄りたちに生きている間も笑顔で過ごしてもらいたいからだ。遺影を写した一人、吉川菊恵さん (96)。中西さんは菊恵さんが四男を不慮の事故で亡くした後も寄り添い続けた。やがて菊恵さんは認知症になり、最期の時が訪れた。</p>	<p>大豊町の写真館の主、中西さんは 10 年以上前から集落を回って、老人たちの遺影を撮影してきた。番組は、中西さんと老人たちとの交流を見つめながら、過疎化、高齢化する集落の姿、そしてそこに暮らす人々のささやかな幸せを描いていて、ほのぼの温かい。</p>

第49回 放送文化基金賞

－ ドラマ部門 －

最優秀賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者等	概要	選考理由
エルピス —希望、あるいは災い— 2022. 10. 24 (月)～12. 26 (月) <全 10 回> 応募は第 1 回、2 回 関西テレビ放送	脚本 渡辺 あや 音楽 大友 良英 演出 大根 仁 撮影 重森豊太郎 照明 中須 岳士 録音 渡辺 真司 プロデュース 稲垣 護 大塚 健二 出演 佐野亜裕美 長澤まさみ 眞栄田郷敦 鈴木 亮平 三浦 透子 岡部たかし ほか	スキャンダルによってエースの座から転落したアナウンサー・浅川恵那（長澤まさみ）と深夜の情報バラエティ番組の新人ディレクター（眞栄田郷敦）が、犯人とされた男の死刑が確定した、10 代の女性が連続して殺害された事件の冤罪疑惑を追う。政権からの圧力や組織の軋轢などと戦っていくことで、自らの封印してきた過去の痛みと向き合い、一度は失ってしまった“自分の価値”を取り戻していく姿を描いていく。舞台となるのは大洋テレビ。浅川の元恋人で政治部記者である斎藤正一（鈴木亮平）や報道からバラエティに異動させられたプロデューサー村井（岡部たかし）など、一癖も二癖もある個性豊かな登場人物たちと二人がどう絡んでいくかも見どころの一つ。二人が追っていく冤罪事件の真相には、別の殺人事件も大きく絡んでいき、政権からの報道への圧力、事件報道におけるマスコミの罪にも触れながら戦う姿を描いていく、新しい社会派エンタテインメント作品である。	映像、演出、演技、ストーリー、あらゆる点でこれまでとは違う一段レベルの高いドラマが出現したとして高く評価された。渡辺あやの脚本、大友良英の音楽、大根仁の演出という手練れのスタッフに支えられ、冤罪と政治権力という実際の社会問題をえぐる批判性の高いドラマとなった。長澤まさみ、眞栄田郷敦、鈴木亮平、三浦透子、岡部たかし等が演じる主要人物の激しい葛藤と変貌とが視聴者の心を深く捉え、見事、最優秀賞に輝いた。

優秀賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者等	概要	選考理由
ドラマ 10 大奥 2023. 1. 10 (火)～3. 14 (火) <全 10 回> 応募は第 1 回、2 回 NHK	原作 よしながふみ 脚本 森下 佳子 音楽 KOHTA YAMAMOTO 主題歌 幾田 りら ビジュアルデザイン 清川あさみ 制作統括 藤並 英樹 プロデューサー 船田 遼介 美術 岸 聡光 技術 小沢 浩二 音響効果 佐々木敦生 演出 大原 拓 出演 富永 愛 中島 裕翔 堀田 真由 福士 蒼汰 仲 里依紗 山本 耕史 ほか	江戸幕府 3 代将軍・徳川家光の時代、奇病「赤面疱瘡」が日本中に広がっていった。この病は若い男子にのみ感染し、感染すれば数日で死に至る恐ろしい病であった。対処法も治療法も発見されず、結果として男子の人口は女子の 1/4 にまで激減し、日本の社会構造は激変した。男子は希少な種馬として育てられ、女子はかつての男子の代わりとして労働力の担い手となり、あらゆる家業が女から女へと受け継がれるようになる。3 代家光以降、将軍職も女子へと引き継がれ、大奥は将軍の威光の証であるがごとく希少な男子を囲い、俗に美男 3 千人などと称される男の世界が築かれていくのであった。	話題の漫画を原作とし、華やかな映像と絢爛たる俳優陣によって珠玉の作品となった。男女逆転の物語は現代の日本社会に問題意識を投げかけると同時に、若い男優らの魅力をアピールする枠組みともなった。

奨励賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者等	概要	選考理由
ふたりのウルトラマン 2022. 5. 2 (月) 東京ビデオセンター NHK NHKグローバルメディアサービス	脚本・監督 中江 裕司 撮影 平林聡一郎 照明 田中 利夫 音声 森 英司 美術 竹内 悦子 編集 宮島 竜治 プロデューサー 新井真理子 制作統括 中村芙美子 出演 茂木 明彦 横山 隆宏 満島真之介 佐久本 宝 青木 崇高 平田 満 玉置 玲央 蔵下 穂波 綾田 俊樹 ほか	沖縄復帰直前、日本全国で大ヒットしたドラマ「ウルトラマンシリーズ」。そのシリーズには、金城哲夫と上原正三という沖縄出身の若き脚本家が参加していた。アメリカの統治下、沖縄からパスポートを持って上京、豊かな想像力を発揮し、円谷プロのメインライターとして、日本中の子どもたちの大人気番組を創り上げていった。その後、金城は「故郷、沖縄の復帰を見届ける」と帰郷。激動の沖縄と本土の【架け橋】になろうと意気込んでいたが37歳の若さで事故死する。当時の証言を交えながら、日本復帰前後の沖縄の光と影、夢と挫折を見つめるドキュメンタリードラマ。	ウルトラマンを生み出した二人の沖縄出身の青年の苦闘を感動的に描き、沖縄本土復帰50年後の今も、沖縄が抱える問題が未だ解決されていないことを考えさせる意義深い作品となった。満島真之介の演技が特に光った。
ブラッシュアップライフ 2023. 1. 8 (日) ~ 3. 12 (日) <全10回> 応募は第1回 日本テレビ放送網	脚本 バカリズム 音楽 fox capture plan 演出 水野 格 狩山 俊輔 松田 健斗 チーフプロデューサー 三上絵里子 プロデューサー 小田 玲奈 榑原真由子 柴田 裕基 鈴木 香織 出演 安藤サクラ 夏帆 木南 晴夏 染谷 将太 志田 未来 田中 直樹 水川あさみ バカリズム ほか	地元の市役所で働く近藤麻美はごくごく平凡な人生を送っていた。しかしある日、麻美はトラックにはねられ、あっけなく死んでしまう。困惑する麻美に、死後の世界の案内人なる男が告げる。「33年間、お疲れさまでした。これから新しい生命にご案内します」。そこで宣告された来世は人間ではなく……。もう一度近藤麻美として同じ人生をやり直して徳を積みば人間に生まれ変われると聞いて、人生のやり直しを選択することに。かくして麻美の人生2周目が始まった！ バカリズムが壮大なスケールを持って余し、不思議な日常を描く地元系タイムリープ・ヒューマン・コメディ。	何気ない日常を繰り返していく「普通」の大切さと、人生をやり直すというシチュエーションの面白さによって、「普通」ではないユーモラスなドラマが生まれた。安藤サクラの自然体で深みのある演技が特に光った。

第49回 放送文化基金賞
— エンターテインメント部門 —

最 優 秀 賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者 等	概 要	選 考 理 由
<p>～この後どうする？ 密着TV～ 終わりが始まり</p> <p>2023. 2. 25 (土)</p> <p>読売テレビ放送 中京テレビ放送</p>	<p>チーフプロデューサー 演出</p> <p>ディレクター</p> <p>構成</p> <p>出演</p> <p>高橋 宏輔 笠井 知己 竹内 翔 坂谷 龍司 小野 謙馬 那須 賢道 米山 敦也 鳥居 大雅 鹿谷 忠弘 稲見 周平 加藤 浩次 カンニング竹山 中岡 創一 槇野 智章 鷺見 玲奈 大橋 和也</p>	<p>お祭りやイベント、試合やコンサートなどなど…その日のために生活のすべて費やし、魂を燃やす人々が集う“熱狂”の瞬間…。</p> <p>「そういえば…終わった後って、どうなっているんだろう？」</p> <p>これまでよく目にしてきた“熱狂”までの道のりではなく、終わった後を追跡する密着ドキュメントバラエティ番組。</p> <p>年間120万人の観客動員数を誇る「木下大サーカス」。公演を終えた直後の団員たちを待ち受けていたのは、本番よりも過酷な撤収作業！</p> <p>毎年ヤンチャな新成人たちで話題になる北九州市のド派手成人式。式の後、彼らがとったまさかの行動に母親は涙…。</p> <p>半年間の遠洋漁業から帰って来たマグロ漁船の船員たちが、陸に上がり真っ先に向かった場所とは！</p> <p>“エビ中”ことアイドルグループ「私立恵比寿中学」のメンバー卒業ライブ取材。ライブ終了後も帰宅しないファンに隠された秘密とは…。</p> <p>これまで光を当ててこなかった『その後の新事実』が浮き彫りに！</p>	<p>イベントや出来事の終わった時点から取材を始める、という逆転の発想が新しい。例えばド派手な衣装で有名な北九州の成人式。その終了後に彼らに密着すると、意外にも真面目で家族想いの新成人たちの素顔が見えてくる。テレビは「ハレ」（非日常）のイベントばかり追いかけてがちだが、必ずその裏側には「ケ」（日常）のリアルな人間模様が存在することに気づかされる。日常のかけがえない一瞬をカメラで捉え、人生を優しく肯定する珠玉のドキュメント・バラエティである。</p>

優 秀 賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者 等	概 要	選 考 理 由
<p>TAROMAN 岡本太郎式特撮活劇</p> <p>2022. 7. 19(火) ～7. 30 (土) <全 10 回> 応募は第 1 回～5 回</p> <p>NHK NHKエデュケーショナル 豪勢スタジオ</p>	<p>制作統括</p> <p>構成・脚本・ディレクター</p> <p>プロデューサー</p> <p>撮影</p> <p>特撮美術</p> <p>編集</p> <p>音楽</p> <p>出演</p> <p>倉森 京子 木道 壮司 藤井 亮 柳本喜久晴 佐野 晴香 藤本 雅也 石井那王貴 奥本 宏幸 林 彰人 岡村 渉 山口 一郎 ほか</p>	<p>岡本太郎が世に送った唯一無二の〈作品〉群、そして心を鼓舞する〈ことば〉たち。両者ががっぷりと組み合わせ、超感覚的に岡本太郎の世界へと誘います。</p> <p>10 話それぞれのタイトルは「でたらめをやってごらん」「自分の歌を歌えばいいんだよ」「一度死んだ人間になれ」など太郎のことば。それをテーマに「なんだ、これは！」という特撮映像（1972年に初回放送後忘れ去られていた番組、というテイ）が展開します。</p> <p>主役はTAROMAN（タローマン）。正義の味方ではなく、シュールででたらめなやりとりで、奇獣と戦います。対する奇獣たちは〈森の掟〉〈疾走する眼〉〈駄々っ子〉など太郎の作品を造形化。</p> <p>番組後半は、山口一郎さん（サカナクション）が登場。各回の〈作品〉と〈ことば〉について、岡本太郎とTAROMANへの愛をこめて語ります。</p>	<p>岡本太郎の世界観を架空の短編特撮ドラマシリーズを通して見事に現代に蘇らせた。「でたらめをやってごらん」「同じことをくりかえすくらいなら、死んでしまえ」という太郎の強烈な言葉は、テレビや現代社会に対する鋭い批評にもなっている。</p>

奨励賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者等	概要	選考理由
<p>NHKスペシャル 超・進化論 第1集 植物からの メッセージ ～地球 を彩る驚異の世界～ 第2集 愛しき昆虫 たち ～最強の適応 力～</p> <p>2022. 11. 6 (日) ～ 2023. 1. 8 (日) <全4回> 応募は第1回、2回</p> <p>NHK</p>	<p>語り 廣瀬 智美 脚本 兵藤 るり 車谷 知恩 演出 北村圭司郎 松村 亮一 美術 阿部 浩太 技術 佐々木喜昭 撮影 小迫 裕之 高橋 紘介 齊藤 悠平 映像デザイン 倉田 裕史 音響効果 東谷 尚 東本 佐保 編集 荒川新太郎 森本 光則 ディレクター 白川 裕之 水沼 真澄 制作統括 浅井 健博 足立 泰啓 出演 堺 雅人 西田 敏行 角田 晃広 関水 渚 板垣 瑞生 ほか</p>	<p>自然界のおきてについて、チャールズ・ダーウィンが唱えた「進化論」。今、そのルールの中に隠された驚くほど深えんなしくみが、明らかになり始めている。“人間は最も進化した生き物だ”という思いこみを捨て、生き物たちの知られざる世界を最先端のストーリーで描き出す。</p> <p>第1集は、植物の見えざる世界に、最先端の科学と特殊撮影を駆使して徹底的に迫る。見えてきたのは、常識を覆す驚異的な能力の数々。番組では世界で初めて、植物が“おしゃべり”するようにコミュニケーションする様子を映像で捉えることに成功した。第2集は、世界に100万種！地球上のあらゆる場所に進出し多様な進化を遂げた昆虫の大繁栄の秘密に迫る。カギを握る能力の一つが「完全変態」。サナギの中身の“透視”や常識外れの飛行術の謎に挑む。堺雅人、西田敏行らによる不思議なドラマとドキュメントを交えて、本格科学エンターテインメントとしてお届けする。</p>	<p>生き物たちがもつ共生や助け合いの驚異的な能力、人間には見えていない豊かな世界を最先端の映像技術を駆使して可視化することに成功した。最新の研究成果をもとに、進化論の常識を覆す画期的な科学エンターテインメントである。</p>
<p>THE 闘牛アワー</p> <p>2023. 3. 1 (水)</p> <p>琉球放送</p>	<p>プロデューサー 高良 誠 ディレクター 伊波 勇作 宮城 恵介 編集 田邊 志麻 出演 伊波 大志 さーねー (こきざみインディアン) もーりー (こきざみインディアン) 松田 るか 赤嶺 浩 宮城 邦治 ナレーション 田久保 諭</p>	<p>1トンあまりの牛同士が闘う「沖縄闘牛」のルールから魅力までを深掘りするトーク番組。沖縄闘牛の基本を始め“闘牛あるある”“闘牛にまつわるクイズ”を盛り込み、闘牛初心者でも楽しめる情報をお届けする。「闘牛実況アナウンサーが選ぶ名勝負」では、逆転につぐ逆転劇や、総重量2.5トンが衝突した迫力あるマッチメイクなど、闘牛の醍醐味が味わえる映像をふんだんに紹介。さらに、勝負の鍵を握る「闘牛士」の役割や意外な一面に迫るなど、闘牛の裏側を披露する。また現在、沖縄闘牛界で「最も強い牛」を育てる家族の1日に密着し、闘牛の世話の過酷さと、一丸となって牛を育てる家族の思いに迫る。現代の沖縄闘牛だけでなく、100年以上を誇る歴史や、41連勝を記録し伝説となった名牛の解説を通して、闘牛の魅力、歴史、楽しみ方を知ることができる構成にし、かつ肩肘張らずに闘牛を楽しむことができるバラエティ番組となっている。</p>	<p>沖縄闘牛の魅力をぎゅ〜っと詰め込んだ1時間。「闘牛のルール」「闘牛あるある」「名勝負ベスト3」など、スタジオの楽しいトークとマニアックな深掘りで、闘牛の面白さを堪能した。ローカルバラエティのお手本のような番組である。</p>

第49回 放送文化基金賞

— ラジオ部門 —

最優秀賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者等	概要	選考理由
講談風大河ラジオドラマ 弁慶記 2022. 3. 7 (月) ~5. 27 (金) <全 60 回> FM TANABE	企画・脚本・演出・編集 大崎 健志 企画・編集 生田 奈穂 濱田 由希子 洞 周作 脚本協力 ピンク地底人 3号 音楽 岡田 太郎 タイトル題字 南方 伶文 音楽協力 古野 雅之 田辺シティブラス 紀南交響楽団 明洋中学校吹奏楽部 企画・制作 「弁慶記」制作実行委員会 出演 山本 大樹 コロ 荻野 祐輔 玉田 玉山 田辺市及び周辺地域にお住まいの皆様 ほか	今から約 850 年前、紀州田辺に鬼子が生まれた。名前は武蔵坊弁慶。呪われた生を世に受けた弁慶は、京の都で牛若と名乗る少年に出会い、彼の旅に同行することで、平家との戦に巻き込まれていく。牛若から名前を変えた源義経、ライバルの平教経、仲間の伊勢三郎、父親の熊野別当湛増、浄土宗の開祖法然、歌人西行・・・逆境に耐えながらも力強く生きる人々との出会いは、武蔵坊弁慶の人生に少しずつ彩りを与えていった。富士川・宇治川・一ノ谷・屋島・壇ノ浦・衣川・・・弁慶は戦と別れを重ねながら、末法の世に生まれた意味を見出していく。平安時代末期は、「武士」をキーワードとする日本史の一大転換点。 武蔵坊弁慶の生きざまと死にざま、戦乱・災害・疫病に見舞われた末法の世界を、講談師の語りと役者たちの演技が織り成すドラマ仕立てでお楽しみください！ 「力は呪いか、祝福か」	講談という古典的な手法が、マンネリズムに陥りかけているラジオドラマに、全く新しい可能性を呼び込んで、ラジオのエンターテインメントを蘇らせた。 脚本家や演者が、生き生きとした描写力のある日本語を操り、しかも知的な興奮も誘い出し、さらに、地方の聴取者を巻き込んで、温か度分厚い日本語表現を実現させ、長いドラマを飽きさせずに完成させた。 しかも、小さな小さなコミュニティFM放送局だったことも驚きだった。

優秀賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者等	概要	選考理由
きたやまおさむ「イムジン河」スペシャル ~音楽は時代(とき)を超える~ 2022. 10. 21 (金) ニッポン放送	制作 長濱 純 演出 伊藤 了子 構成 藤井 青銅 出演 きたやま おさむ 上柳 昌彦 イルカ クミコ 坂崎 幸之助 清水 ミチコ 松山 猛 南 こうせつ 森山 良子	1968年のザ・フォーク・クルセダーズ『イムジン河』は当時の社会情勢の中リリース直前に発売中止、ラジオでも自粛となった。以来様々な形で歌い継がれてきたがこのほど、メンバーのきたやまおさむの呼びかけで『イムジン河 2022 年新録音バージョン』が制作された。 この曲は元々、紛争により分断された国土、民族の想いの歌である。様々な分断や格差が叫ばれる今こそ、この曲を改めて世に出す意義がある。番組では、きたやま自身をパーソナリティに、自身の想いや参加各アーティストのコメントを紹介し、この曲の意味や音楽の持つ力を語り、考えていく。	きたやまおさむ氏の衝撃的なデビューと、若者たちを巻き込んだその後の大変幸せな時代の流れを追って、深夜放送世代にはとても快い音楽プログラムだった。 特にイムジン河をめぐるフォーク世代たちのさまざまな言葉は興味深かった。楽しかった。

奨励賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者等	概要	選考理由
<p>音で綴る復帰50年 「民の謡 島に息づく琉球民謡」、「沖縄のお笑い～そこに込められた想いを辿る～」</p> <p>2022. 4. 16(土)～6. 1(水) (全14回)</p> <p>琉球放送</p>	<p>プロデューサー 多和田 真梨奈</p> <p>「民の謡」 ディレクター 森根 尚美 出演 小浜 司 上原 直彦 松田 しのぶ 狩俣 倫太郎</p> <p>「沖縄のお笑い」 ディレクター 宮国 宏美 出演 八木 政男 仲田 幸子 津波 信一 かでかる さとし 小波津 正光 ひが りゅうた 土方 浄</p>	<p>2022年5月15日の沖縄の本土復帰50年の節目に、約2か月間『音で綴る復帰50年』の特集を組み、「沖縄の本土復帰とは何だったのか」をさまざまなテーマで振り返る特別番組を放送しました。その中でも特に今回受賞した2番組は、沖縄県民の「心」ともいえる「うた」そして「演芸・お笑い」をテーマにしたものです。『民の謡(うた) 島に息づく琉球民謡』では、生活に寄り添ってきた琉球民謡の変遷を音楽とともに辿り、また『沖縄のお笑い～そこに込められた想いを辿る～』では戦後焼け野が原からの復興を笑いで元気づけた小那覇舞天の舞台を当時の音声を織り交ぜながら伝えました。</p>	<p>占領後の沖縄方言によるお笑いの紹介は、その内容をほとんど全く理解できない内地人である私たちのオキナワ感を根底から問い直させる強烈な刺激を秘めていて、この番組を審査する審査会の見識も問い直させるものでさえあった。</p> <p>理解されないことを承知の上で出品した制作者の勇気を称えたい。</p>

第49回放送文化基金賞

演技賞

受賞者	対象番組	選考理由等
<small>ながさわ</small> 長澤 まさみ	エルピス —希望、あるいは災い— (関西テレビ放送) ドラマ部門	ニュースキャスターとしての凛とした佇まいと、弱い人間としてもがく苦闘の振れ幅を打ち出し、視聴者の心をしっかりとつかんだ。その魅力が作品の大きな力となった。

演技賞

<small>みつしま</small> <small>しんのすけ</small> 満島 真之介	ふたりのウルトラマン (東京ビデオセンター NHK NHKグローバルメディアサービス) ドラマ部門	ウルトラマンを生み、沖縄と本土の懸け橋になろうとした金城哲夫の夢と苦闘を、確かな演技力で感動的に表現した。沖縄出身の満島氏ならではの役作りを高く評価したい。
--	---	--

出演者賞

<small>あいはら</small> <small>けいすけ</small> 相原 啓介	ETV特集「ルポ 死亡退院 ～精神医療・闇の実態～」 (NHK) ドキュメンタリー部門	滝山病院の患者支援に関わった弁護士・相原啓介氏は、地道に証言を集め、患者への虐待行為と病院の不正を告発した。相原氏の告発は滝山病院だけでなく、現代の姥捨て山状態になっている日本の精神医療の問題点を指摘するに至った。
--	--	---

脚本賞

<small>もりした</small> <small>よしこ</small> 森下 佳子	ドラマ10 大奥 (NHK) ドラマ部門	見事な構成力で壮大な世界観を打ち出した『大奥』の脚本が受賞対象である。その台詞の巧みさは、最終選考まで残った『ファーストペンギン!』にも見られ、実力を証明した。
---	--------------------------------	--

脚本・演出賞

<small>ふじい</small> <small>りょう</small> 藤井 亮	TAROMAN 岡本太郎式特撮活劇 NHK NHKエデュケーショナル 豪勢スタジオ () エンターテインメント部門	岡本太郎の世界観を体現したシュールででたらめな特撮番組『TAROMAN』の生みの親。奇抜な発想と細部へのこだわりが際立っており、映像作家として異彩を放った。
---	--	--

企画・演出・脚本賞

<small>おおさき</small> <small>けんじ</small> 大崎 健志	講談風大河ラジオドラマ 弁慶記 (FM TANABE) ラジオ部門	非常にすぐれたイメージ喚起力を持つ日本語表現には、知的で深く刺激的な歴史解釈という骨格があった。 のびのびとして自由闊達な意思が感じられて痛快でさえあった。小劇場の発表の場としてのラジオ局という、画期的な表現媒体も開発されたのではなかろうか。
---	--	--

第49回 放送文化基金賞
— 放送文化部門 —

受賞者	業績	業績内容・選考理由
かんどり けいし 香取 啓志 (radiko 最高技術顧問、メディアプラットフォームラボ取締役 所長 兼 技術戦略室長)	radiko の開発・普及に貢献	朝日放送出身。米留学で世界のプラットフォームの変化を予見。常に日本の放送全体のことを考え、2007年4月大阪で「IP ラジオ研究協議会」に参画した。10年に radiko のサービスを開始。現在はエリアを全国に拡大。エリアフリー、タイムフリーにより利便性もアップした。ラジオは、radiko により、スマートフォン、パソコンそして AI スピーカーでも楽しむことができるようになった。その旗振り役、推進役として精力的に取り組んできた功績は大きい。

受賞者	業績	業績内容・選考理由
FMいるか (函館山ロープウェイ)	コミュニティ FM 第1号として、30年間日本のコミュニティ FM 界を先導	1992年に函館で誕生してから地域密着に徹し、毎日中継車を出して放送を続けてきた。災害時にも生放送にこだわり、2018年の北海道胆振東部地震の際には、69時間半にも及ぶ生放送で生活情報等を伝え存在感を高めた。ネットワークづくりにも力を入れ、NHK 函館、北海道新聞等と災害時放送で連携、エフエム青森とは県境を越えて番組の共同制作にも取り組んでいる。日本のコミュニティ FM 界を先導し後続局の模範となっている。

受賞者	業績	業績内容・選考理由
広島テレビ制作スタッフ (広島テレビ放送)	原爆ドキュメンタリーを学校の平和教材に活用	被爆地の報道機関として、核兵器や戦争の恐ろしさを伝える平和報道に力を入れており、原爆に関するドキュメンタリーは200作品に上る。取材で得た貴重な証言を学習にも役立ててもらおうと広島市教育委員会と協力して平和教材を作成。教育委員会作成の学習指導案もあり、2022年夏から広島県内の小中高校で活用され、全国の教育委員会から関心が寄せられている。23年1月に英語版が完成し、「平和首長会議」で6,000以上の海外加盟都市にも発信。核のない世界を目指し尽力している。

受賞者	業績	業績内容・選考理由
『ガイアの夜明け』制作スタッフ (テレビ東京)	20年にわたり、地上波プライムタイムで経済ドキュメンタリー番組『ガイアの夜明け』を放送	21世紀の激変する世界経済の中で懸命に生きる2,300人以上の人間群像を追った経済ドキュメンタリー番組。20年間一貫して、地上波のプライムタイム(22時台)で放送。2022年度は、放送開始20周年で、テレビでは『ガイアが見つめた20年』として国際貢献、環境問題、震災からの復興、中国経済など多岐のテーマにわたり12回放送。配信では『あの主人公はいま・・・』として著名な経営者や、現場で働く人たちのその後を追った企画を47回配信した。人間を通して経済を伝える手法は非常にわかりやすく貴重である。

第49回 放送文化基金賞

— 放送技術部門 —

受賞者	業績	業績内容・選考理由
<p>ニュース映像自動要約技術 実用化グループ (NHK、NHK財団)</p> <p>代表 望月 貴裕 (NHK)</p>	<p>ニュース映像自動要約 技術の開発と実用化</p>	<p>放送番組を要約した短尺映像のネット配信による接触率の向上が期待されている。本開発グループはAI導入により構図・カメラワークから見ても自然で高品質な要約映像をニュースの即時性を失わずに番組終了後わずかな時間で自動生成する技術を開発・実用化した。これまでできなかった複数項目のニュースの自動要約も実現、全国ニュースとともに人手の少ない地域局のニュースにも利用され好評を受けていることは高く評価できる。</p>

受賞者	業績	業績内容・選考理由
<p>Alligator 開発グループ (日本テレビ放送網、 NEC、NTT東日本、 オクルウェブ)</p> <p>代表 小池 中 (日本テレビ放送網)</p>	<p>制作系番組制作フロー を効率化するDXツール 『Alligator』の開発</p>	<p>バラエティ番組等の制作系番組制作のフローをクラウド基盤の構築と高速光専用回線の導入によりDX化し、今まで本体および外部協力会社がバラバラに行っていた「ロケ後のデジタル変換、編集、素材管理など」を一元化、作業フローを大幅に改善した。多くの主要番組で活用され、協力会社からも大幅な勤務改善ができたとの感謝が寄せられており、働き方改革に貢献していることは高く評価できる。今後他社への適用も検討されており拡大を期待したい。</p>

受賞者	業績	業績内容・選考理由
<p>AI音声合成の実用化と 社会貢献推進チーム</p> <p>代表 栗原 清 (NHK)</p>	<p>AI音声合成の実用化 と社会貢献</p>	<p>日本語では初めての人間と同等な品質の音声合成を実用化し、『おはよう日本』などの全国放送をはじめ人手の少ない地方局でも放送に活用されているほか、音声データをオープン化し、防災の呼びかけや視覚障害者向けの音声番組時刻表等、放送以外でも広く活用されている。また様々な音声研究に引用されており、一般社会、研究分野の両面で社会貢献していることは極めて高く評価できる。</p>

受賞者	業績	業績内容・選考理由
<p>BlurOn 開発チーム (日本テレビ放送網、 NTTデータ)</p> <p>代表 加藤 大樹 (日本テレビ放送網)</p>	<p>AIモザイク編集ソフト 「BlurOn」の開発</p>	<p>これまでのモザイク入れは手作業が基本で1つの番組に数十から数百時間かかるものもあった。本装置は制作現場の要望をもとにNTTデータと共同で開発を行い、99%の高い検出精度でフェードイン/アウトに対する自動調整機能などの多様な事前設定機能などの使いよさも加えて、作業時間の大幅削減に成功した。日本テレビおよび外部のポスプロにおける働き方改革への貢献、放送以外の自動車業界、監視カメラなどでも活用されていることは高く評価できる。</p>